

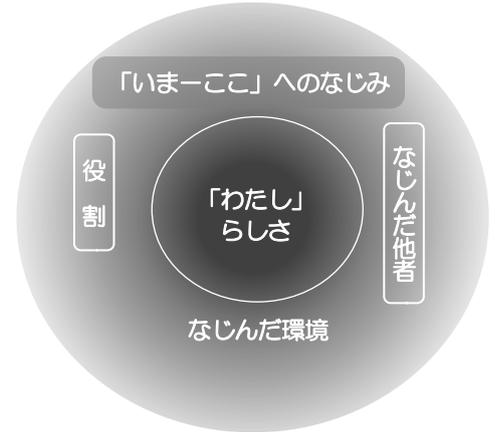
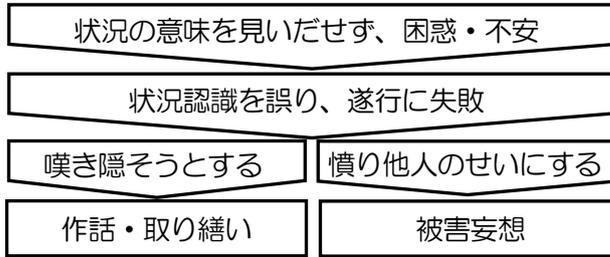
認知症を患う姿

認知と行動～精神病理学的に

- 「いま、ここ」に置かれている「わたし」の状況を、知覚・理解・判断し【認知】、行動する。
- 状況と「わたし」の関係を理解し、状況の持つ「意味」を見出し、判断し、行動する。

認知症を患う主体的意味

- 時間・空間認識を失い、周囲を理解しようとする。
- 状況と自己との関係、状況からの「意味」を見出せない。
- 「なじみ」「わたしらしさ」の揺らぎ、喪失。
- 「いまーここにいるーわたし」の不確かさ。



嫁・ヘルパー・子・施設スタッフ
自分より以前から入所している者
後から入所し注目を集める者

盗害妄想「嫁にお金を取られた」

- わたしにとって、優位に立たれたと感じるのだが、そうは認めたくない相手が、わたしのなじみの領分（生活空間）に入り込み、侵害する。
- 依存しなければならぬ、優位に立たれた相手だからこそ、妄想対象となり、攻撃を仕向ける。

そもそも「わたしらしさ」が揺らぎ、これまで通りのやり方も通用しないようだ戸惑っている。そこに、他者が踏み込み、なじまないやり方を強いてくる。戸惑いが極まり、わたしらしさが奪われる。しかし、生活するからには、その他者に頼らなければならない。なじみを奪われ、主導権まで握られる。

認知症を患う姿

①「いまーここ」が理解できずに困惑した「わたし」【自己要因】

- 理解、判断する力が落ちて、状況の持つ意味を見いだせない。
- 実行機能が落ちて、今までのやり方が通用しない。

態 様
「どうしていいんだか、さっぱりわからなくて」
「困った。どうしちゃったんでしょう」
「これからどうなってしまおうんだか、心配で……」

なじんだいたはずの環境なのに、「いま、ここ」がわからなくなり、今までできていたこともあやふやになり、わたしの役割を見失い、「わたしらしさ」が揺らいだ姿。

「いまーここ」になじめない

わたしらしさの揺らぎ

なじんでいたはずの環境

対処法

- 環境をわかりやすく整える。
- 「いつもの顔ぶれ」で接する。
- 関わり方、関わる内容を統一する。
- 日課を一定にする。
- 本人ができない部分を補う。できないことを強いない。

② 「いまーここ」に適應できずに混乱した「わたし」【状況要因】

- 環境が複雑でわかりにくくなじめず、状況の持つ意味を見出せない。
- 新しい環境に【拒否】→拒否に対して強制すると【興奮】

※通常なら、環境変化には【緊張】する。

「いまーここ」になじめない

態 様

- ◆施設入所後、新しいヘルパーに被害妄想。
- ◆入院後、帰宅願望を募らせ、興奮。
- ◆通所日の朝に、体の不調の訴え。

なじみのない、わかりにくい環境に追いやられ、「いま、ここ」がわからなくなり、「わたしらしさ」が揺らいた姿。混乱を避けるために、拒否、興奮し自己防衛。

わたしらしさの揺らぎ

なじみのない
わかりにくい環境

対処法

- 担当者を決め「なじみの関係」を早期に築く。
- 関わり方を統一する。 ●「昔取った杵柄」。
- 日課を一定にし、適応的な別の常同行動を確立する。
- 同じ時間に同じ人と同じ事をする。
- 被影響性の亢進・常同行動・転導性の亢進の利用。

- 頻繁に会い顔を覚えてもらう。用がなくても接する。
- 通所の際に担当者がバスに乗って送迎する。
- 担当者が休みの時は、前もって代理を紹介しておく。

「昔取った杵柄」

役割を担える自発的な、なじみのある行動。

以前やっていた、反復行動を主体とした作業例) 編み物、ジグソーパズル、カラオケ

③ 「いまーここ」に葛藤した「わたし」【対人要因】

- 強制・制止・拒否・孤独を契機に、状況に折り合えず、異常行動。

自発的な行動を抑え、別な行動を促す。

拒否・抵抗・粗暴・異食・収集癖

「いまーここ」になじめない

態 様

- ◆食事を急かしたら怒り出した。
- ◆無理に入浴に誘ったら暴れた。
- ◆独りでいると異食、収集、徘徊。

他者になじみをかき乱され、「いま、ここ」に折り合えず、不快に対峙とっさに拒否。孤独なまま放っておかれ、独りで行動。強制され、やろうとすればするほどうまくできず、混乱。

わたしらしさの揺らぎ

なじみを乱す
他者

対処法

- 強制・制止ととれる言動をなくす。
- 自発的な行動を促す。 ●「昔取った杵柄」で役割。
- 頻繁に声をかけ、接触する。 ●他者との関係づくり促す。

自動性と意図性の解離

自然な状況ではできるが、やろうと意図するとできなくなる。

④昔に回帰し「いまーここ」に折り合う「わたし」【限定適応】

- 状況の持つ意味を見出せず、なじみのある過去へ退却。
- 状況がなじみの過去に似ると、状況の意味がわかり、昔に回帰。
- 「いまーここ」が過去に作り変えられている。

「いまーここ」への折り合い

おぼろげながら
わたしらしさ

わかりかけた環境

態 様

- ◆人形を見ると育児の真似。
- ◆夕方「そろそろ帰らなくては」
- ◆「夕食を二人分、注文しておいてください」
- ◆夫が最近亡くなった。
入院後「夫がお世話になっています」

「いま、ここ」が、なじみの過去に似ると、
状況の意味がわかり昔に回帰。
「わたしらしさ」「役割」を取り戻す。

対処法

- 過去への回想に寄り添う。
- 相手に合わせて、話し、行動する。
- 徘徊に同行する。
- 「昔取った杵柄」で役割。
- いまここで感じている辛さに共感。

「受け入れられた」という実感
→回帰する必要がなくなる。

⑤「いまーここ」に心を閉ざした「わたし」【発動性低下・自閉】

- わかりにくくなじめない環境から離れ、無反応、無関心、無為。
- 意味を探ろうにも叶わない状況との関係を、自ら断ってしまう。
- わたしらしさの喪失。

「いまーここ」になじめない

わたしらしさ
の喪失

わからない環境

態 様

- ◆ふだんは無反応だが、
外出し桜を見て、表がほころんだ。
- ◆唱歌合唱で、かすかに声を出した。
- ◆子供の姿を見て、相好を崩した。

「いま、ここ」の様子が、
おぼろげながらわかると、かすかに反応、呼応。

対処法

- いまここに戻る契機を見つける。「傷つかない」「安心」「わかる」「懐かしい」「楽しい」。
- 「昔取った杵柄」で役割。

rehabilitation 復旧ではなく 復興へ

- 「いまーここ」に意味を付与し、
「わたしらしさ」「なじみの環境」を新たに創造する。
- 病態特性を生かして関わる。

取り繕い・作話・意図性—自動性の解離
被影響性の亢進・常同……

「わたしらしさの揺らぎ」
を基調とした「いまーここ」

新たな役割

昔取った杵柄

揺らぎつつも
「わたしらしさ」
を復興

新たな「おなじみ」

なじみを復興し
わかりやすい環境